

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）（基盤研究（S））中間評価

課題番号	20H05705	研究期間	令和2（2020）年度 ～令和6（2024）年度
研究課題名	心的イメージの脳情報表現の可視化	研究代表者 （所属・職） <small>（令和4年3月現在）</small>	神谷 之康 （京都大学・情報学研究科・教授）

【令和4（2022）年度 中間評価結果】

評価	評価基準	
	A+	想定を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
○	A	順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	A-	概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である
	B	研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C	研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である
<p>（研究の概要）</p> <p>本研究は、研究代表者らがこれまで開発してきた脳情報デコーディング技術と深層ニューラルネットワークを融合することによって、脳内の様々な心的イメージを可視化し、イメージが生成される脳部位や情報処理方式を解明しようとするものである。</p>		
<p>（意見等）</p> <p>脳情報デコーディングと深層ニューラルネットワークを融合した可視化技術は、世界的にも先駆的な独自手法である。この手法を用いて再構成画像が注意によって変化すること、錯視図形の再構成画像が主観的イメージを強く反映することを示したことは、当該研究分野で世界を牽引する成果であり、高く評価できる。</p> <p>また、個人間で深層イメージの再構成を可能にしたことは、個人ごとに取得が必要なデータ量を軽減できるため、ブレイン・マシン・インターフェースへの応用を可能にする重要な研究成果である。</p>		